

奄美地域における早熟カボチャの着果安定技術

○満留克俊・福山聡¹⁾・後藤英嗣・野添博昭²⁾

(鹿児島農総セ徳之島・¹⁾鹿児島県農政部・²⁾フラワーパークかごしま)

【目的】

奄美地域の早熟カボチャ栽培において、既存品種の「えびす」は、交配時期にあたる3月上～中旬が奄美特有の低温、多雨、寡日照などの気象条件で、雄花の花粉が発現しにくく、着果が不安定である。また、市場によっては、高粉質系品種の導入を望む声がある。そこで、気象不良条件下で雄花の花粉形成が優れ、収量、品質が優れる品種の選定を行った。また、選定品種について、収量性の高い「えびす」の授粉用品種としての適応性を併せて検討した。

【材料および方法】

試験1 2000年、2004年に計10品種を検討し、そのなかから気象不良条件下で雄花花粉形成が優れる「くりひろ」、「味平」の2品種、高粉質系品種の「くりゆたか」、これに既存品種の「えびす」を加えた4品種で品種選定を行った。2005年1月6日に徳之島支場内ほ場に直播した。仕立て法は、親づる1本這い作り、1蔓1果どり、保温は中型トンネル(高さ70cm×幅150cm)に農業用ビニールを一重被覆した。

試験2 収量性の高い「えびす」の着果安定および出荷の前進化を図るため、気象不良条件下で雄花の花粉形成が優れた「くりひろ」、「味平」の花粉を利用し、授粉用品種としての適応性を検討した。栽培方法は試験1に準じて行った。

【結果および考察】

試験1 気象不良条件下の雄花花粉形成は、「くりひろ」が最も良好であった(図1)。着果開始日は、「くりひろ」および「味平」が早く、着果が完了するまでに要した日数は「くりひろ」が最も短かった(表1)。平均果重は、「えびす」が最も重く、次いで「くりひろ」および「くりゆたか」が同等、「味平」は最も軽かった(図2)。粉質程度は、「えびす」と比較して他の品種は強かった(表2)。

試験2 平均着果日は、「えびす♀×くりひろ♂」および「えびす♀×味平♂」が早く、着果が完了するまでに要した日数も短かった(表1)。平均果重および食味は各試験区で明らかな差異は

認められなかった(図2、表2)。メタキセニアは、授粉用品種に「くりひろ」、「味平」を用いた今回の試験では明らかでなかった(表2)。

以上の結果、奄美地域の早熟カボチャ栽培において、「くりひろ」が低温、多雨、寡日照などの気象不良条件下で着果が安定し、収量性が高く有望であった。また、「くりひろ」、「味平」を授粉用として利用することで「えびす」の着果安定に有効で、果実品質に及ぼす影響は少なかった。

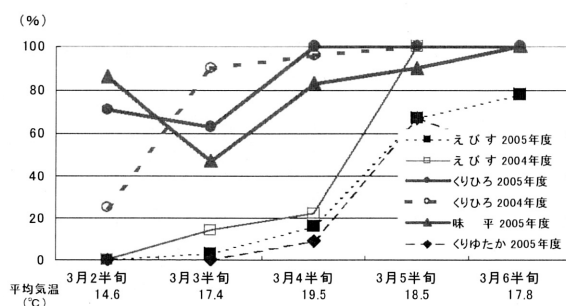


図1 花粉形成が良好な雄花の割合
注) 平均気温は2004年、2005年の平均

表1 着果日、着果節位

試験区	着果開始日	着果終了日	要日数	平均着果日	着果節位
えびす	3月18日	3月24日	7	3月20日	20
くりひろ	3月17日	3月19日	3	3月17日	16
味平	3月17日	3月20日	4	3月19日	17
くりゆたか	3月18日	3月23日	6	3月20日	17
えびす♀×くりひろ♂	3月16日	3月19日	4	3月17日	17
えびす♀×味平♂	3月15日	3月20日	5	3月17日	17

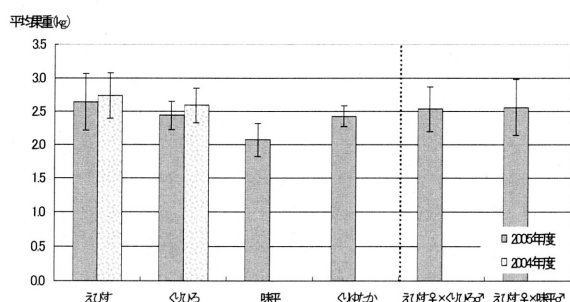


図2 平均果重 I:標準偏差

表2 「くりひろ」および「味平」の花粉が「えびす」の果実色に及ぼす影響

試験区	生果皮色			生果肉色			食味官能調査	
	L	a	b	L	a	b	粉質	旨さ
えびす♀・♂	25.3	-3.9	5.5	61.3	12.2	38.7	3.0	3.0
えびす♀×くりひろ♂	25.0	-4.1	5.2	62.1	12.6	39.2	2.9	2.9
えびす♀×味平♂	24.9	-4.2	5.0	61.8	12.7	38.7	2.9	3.0
くりひろ♀・♂ (参考)	23.0	-3.2	3.6	65.1	10.6	40.1	3.6	2.6
味平♀・♂ (参考)	23.6	-3.6	4.7	60.6	10.8	38.0	3.7	2.5

注) 調査日: 2005年5月13日 Lab.表色系: R Hunter C: 明度 a: 赤み b: 黄み

食味官能調査: パネラー9名 粉質 旨味の程度: 0 (粘質、甘みなし) ~ 5 (粉質、甘み)